

研究結果の概要

研究課題名：多面的アプローチを用いた高次脳機能障害患者の復職支援プログラムの開発に関する研究

熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野 准教授 橋本 衛

研究目的

高次脳機能障害は事故や病気によって脳が損傷され、記憶、注意、遂行機能などの認知機能障害ならびに情動や行動などの精神・心理過程に障害が生じ、日常生活・社会生活に支障が生じた状態である。通勤中の交通事故や業務中の頭部外傷、過労によるくも膜下出血等による高次脳機能障害の頻度は少なくなく、労災の観点からも重要な病態である。しかし、高次脳機能障害患者に対する効果的な復職/就労支援方法についてはいまだ確立していない。本研究では、高次脳機能障害患者の持つ様々な課題に対して多面的なアプローチを実践し、復職/就労につながった事例とつながらなかった事例の特徴を検討することによって、各アプローチの有効性、問題点を明らかにする。それらの結果から高次脳機能障害患者に対する復職/就労支援マニュアルを作成することを最終的な目的とする。

研究方法

本年度は以下の6つのアプローチを実施し、マニュアル作成に着手した。

- ①復職/就労困難5事例から、高次脳機能障害患者の復職を妨げる要因を検証した。
- ②復職/就労に至った6事例の内容、支援方法を検証し、復職/就労に効果的であったアプローチを抽出した。
- ③復職/就労支援に重要な役割を担う医療専門職である言語聴覚士および作業療法士に対してアンケート調査を実施し、高次脳機能障害者の復職/就労支援に対する支援体制の現状と実態を明らかにし、医療・福祉ネットワークの構築にあたっての課題を探った。
- ④易怒性は、社会生活においてしばしば問題となる社会的行動障害の一つである。本年度は易怒性の治療方法であるアンガーマネジメントを3事例に実施し、その有効性を検証した。
- ⑤患者の就労環境調整の一つとして、車による通勤の可否があげられる。そこで高次脳機能障害患者の自動車運転支援を行っている熊本セントラル病院を協力機関として、自動車運転再開支援プログラムの開発に着手した。
- ⑥家族の過干渉や敵意、情緒的不安定（感情表出；EE）さが患者の精神状態を悪化させ、社会復帰を妨げている場合がある。このような家族への効果的な介入方法を開発のための第一段階として、家族のEEと復職/就労との関連性を検証するための評価バッテリーを作成した。

研究成果

- ①復職/就労阻害要因として、重度の認知機能障害や社会的行動障害、障害に対する自覚の乏しさなどの患者本人の障害が直接の原因となること、医療・福祉・企業間の連携不足、高次脳機能

障害に対する社会や企業の理解不足が確認された。

②復職が可能であった高次脳機能障害者では、障害に対する本人の自覚が得られていた、精神科を中心とした医療機関が数年以上もの長期に亘って継続的に関与していた、高次脳機能障害支援コーディネーターなどの専門職が有機的に関わっていた、医療と福祉、職場の連携がとれていた、障害に対する職場の理解と協力が得られた、などの特徴があった。

③高次脳機能障害患者の復職支援のニーズは、40代から定年前までの壮年男性が多く、この年代の復職支援に困難さを感じているリハビリテーションスタッフが多かった。その要因として、職場側の受け入れ態勢、協力体制の不足を挙げていた。復職に影響する症状としては、近時記憶障害、コミュニケーション障害、注意障害が問題であるとするリハビリスタッフが多く、社会的行動障害が復職の妨げになっていると考えるスタッフは少なかった。

④アンガーマネジメントにより、3事例ともに易怒性によるトラブルが減少した。完全就業には至らなかったが、仕事への意欲の増加や作業所への継続的参加ができるようになった。

⑤復職/就労を予定あるいはすでに就労している高次脳機能障害患者に対する自動車運転再開支援体制を整え、アプローチを開始した。

⑥患者の症状評価バッテリーと家族の感情表出を評価するバッテリーとを作成した。さらに、作成した評価バッテリーを、交通事故による脳外傷後遺症患者とその家族に実施し、内容の妥当性を確認した。

結論

高次脳機能障害患者の復職/就労支援には、以下の介入、取り組みが有効な可能性がある。

1. 精神科を中心とした医療機関の継続的な関与
2. 近時記憶障害、コミュニケーション障害、注意障害に対する効果的なリハビリテーションプログラムの立案
3. 易怒性が問題となっている患者へのアンガーマネジメントプログラムの実施
4. 数年以上の長期に亘る介入が可能な支援体制の構築
5. 40代以降の壮年男性の復職/就労支援体制の強化
6. 医療と福祉、職場の連携を強化するシステムの構築
7. 高次脳機能障害支援コーディネーターの養成と配置
8. 障害に対して寛容な企業・社会風土の涵養と障害者雇用や復職理解を促す施策

今後の展望

アンガーマネジメント、家族支援、自動車運転再開支援プログラムなどの多面的アプローチを継続し復職/就労事例をさらに集積するとともに、医療と福祉、職場との連携を強化するシステム構築するための手法を研究する。加えて、近年問題となっている発達障害合併患者の支援方法についても検証する。関連学会で高次脳機能障害に対する教育講演を企画し、医療従事者への啓蒙を行う。集積された事例から各アプローチの有効性と問題点を整理検討し、高次脳機能障害の復職支援マニュアルを作成し、関連機関に配布する。